
見えない世界 The invisible world

みよん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

見えない世界 The invisible world

【Nコード】

N2488P

【作者名】

みよん

【あらすじ】

科学崇拜によって神々の信仰が薄れいく世界
その世界を先導する国はアメリカ、イギリス、
そして、極東の島でありながら科学力は世界随一の日本だった。

来月から高校2年生へ進級するはずだった・諏訪 優は
突如として学校から転校を推薦される・・・

自分の意思とは関係なく半強制的に転校させられた諏訪は

転校先で不可思議な生活を送ることになる・・・

プロローグ とある少年の独り言

流れる時間

変わる世界

長きに亘る神々への信仰は、

今や科学崇拜へと移行しつつある・・・

ありとあらゆる現象の科学的説明によって、

神々の存在を否定しつつある人間は

やがてその存在を高めようとしていた。

「神がないのなら自分たちがなる」

そう考える輩がどこにでもいる。

神の仕業と思われてきたことのタネをすでに解き明かしたからだ。

そして僕もそうだった。

そうしてあの学校に入学した。

今となつては愚かな事だと思つ。

信仰することをやめた人間が、

神になるなんて。

不可能なことではなかったと思う。

でもなれなかった。

当然さ、

神がどんなものか誰も知らない。

何故なら……

プロローグ とある少年の独り言 (後書き)

どうも、お初です。みよんです。みよんな人間なのです。

この作品は不定期更新となる恐れがあります。

ていうかもうフラグ立ってますな。恐ろしい…(´A`;))

まあゆっくりご覧になっていただけたら嬉しいですよ(´・`・`)

プロローグ 急な転校という急展開 (前書き)

プロローグは基本特殊な書き方にします。
全三部構成で、基本空欄の多い仕様です。

プロローグを抜ければあとは読みにくいぎっしり小説にするつもり
なのでw

プロローグ 急な転校という急展開

「話の主旨がよくわかんないんですけど・・・」

困った顔、というよりはやや呆れ顔

この校長はいつもそうだと少年・諏訪^{すほつ} 優^{ゆう}は思う

入学式当初からそう思っていた

なんというか、言いたいことがよく分からないのだ

「だからね・・・あー・・・うーん・・・」

来月から晴れて2学年に進級となるんだけど、

君にはとある学校に転校してもらいたくてね・・・」

「いや、だからその理由を教えて欲しいんだと」

「そういわれても困るんだよね・・・」

私だつて突然の命令で驚いているんだから・・・」

今の仲のいい仲間達と進級したいのはわかるけどね、と

大方まとめるところなる

科学の発達によって今や世界のあらゆる現象は人間が解明した

そしてその中には人間自体が持つ「^{アビリティ}能力」の解明も含まれる

しかし解明できない部分もあった

いわゆる「オカルト」なるものの力だ

そこで世界の科学を引っ張る国の一つであること、日本の

「オカルト」を解明するための特別学校に、いや学園に転校しろと

国から直々に命が下つたらしい

あほらしい事この上ない

何で自分が、と思う前にそんなことの解明に力を注いでいるやつらの頭の中があほらしい

科学者は「万物を理解し、真理を解き明かしたい気持ち」だけでしか構成されていないのか・・・

そんなこんなで、

これといって特別でもなく、一般人の生活を歩むべき私めは

そんな得体の知れない学園に半強制的に転校する羽目となった・・・

「よう、諏訪！いつたいどんなお説教食らったんだ？」

俺が校長から直々にありがたいお話がいただけると聞いて

どうやら頭の中で「ええじゃないか」が半永久的に行なわれている

大切なクラスメイトは勘違いをしているようだ

とはいっても、会社じゃあるまいし

転校しなさいと命令されることはあまりなからうよ

ありがたいお話がこの学校は君にはふさわしくありませんねか「ハキトク スグカエレ」なんてとこだらう

「転校だよ。転校しろって言われたー」

「はあ？」

クラスにいる何人かが驚きの表情だ

無理もない

入学してから共に過ごし、もう少しで進級ですねみなさんなんて時期に突然の転校だ

しかも命令形で

「いや・・・てえゆーかよ、転校って普通 親の都合で〜とかじやないのか？」

学校から転校させるなんてことできるのか？」

「俺が聞きたいよ・・・。俺だってまだ呑み込めないんだもんよ・・・」

「ならば！ならば！その話が本当だったらどこいくんだ！？それもわかんねえのか！？」

いつの間にか俺の周りには何人ものクラスメイトが集まっていた

「あゝほらあれだよ。今流行の・・・」

「流行ってる学校なんてあったか？」

「いやしらねーな」

「いやだから近年東京にできたっていう国立の・・・」

「最近東京に国立の高校なんてできたのか？」

「できたっけか？国立の女子高・・・なわけねえしな」

「ほら能力の^{アビリティ}」

「2次元的発想で行けばまさかの女の子だらけの」

「いい加減にしる！」

頭わいてんのか！！お前らなんざもつ名前で呼ばん！

一般学生、いやそこらたの人だ！！」

切れんなよ〜・・・と怯える目で見つめる「そこらたの人」A・B・

C・G

話を勝手に盛り上げられて切れんなといわれても俺にとっては俄然

無理な話である

「え〜となんつったか・・・。」

あー、あー、天の樹つてとこだったかなあ」

豹変　なんて表現が頭に思い浮かぶことは早々ないと思っていた

突然クラスメイトの連中の顔が変わった

浮かび上がるのは、「怒り」そして「嫉妬」だ

「なんでお前なんだよ・・・。」

「ありえねー・・・ってかねーわ・・・。」

「まじかよ・・・。」

冷ややかだ

先ほどのふざけた態度はもう微塵も残っていない

人間とはここまで瞬時に人格が変われるものなのか・・・

「いったいなんだよ・・・。」

俺はみんなとこの学校にいるほうが」

「んだそれ？もう俺らのこと見下しはじめてんのかよ。

失望したな」

「聞かねえ方がよかつたな」

「お前なんざどこでも行けよ」

わけが分からなかった

自分はただ行く先を告げただけだ

それもこいつらに聞かれた上でだ

そして何より行き先を知っただけでなんでこいつらがキレるのかも分からなかった

最後の最後までこの溝は直らないまま、

俺はこの学校を去ることになった

そして、

俺はなぜあいつらがキレたのか

その意味を理解することができた

プロローグ 急な転校という急展開 (後書き)

なかなか進んでいるように思えない。

頭の中にはストーリーができてるのに

上手くまとめられないって悲しいね。

しかも案外書いたなああって思ったけど

結構短いじゃまいかwww

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2488p/>

見えない世界 The invisible world

2010年12月2日02時23分発行